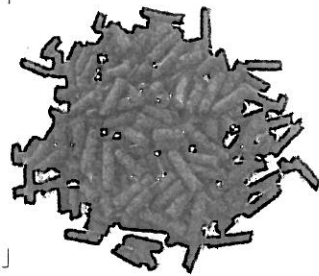


大栄サービス

# 保管施設稼働で 効率リサイクル



## 廃棄飲料をバイオマス燃料に

総合リサイクル業の大栄サービス(兵庫県西宮市)は、賞味期限切れなどで廃棄される清涼飲料水を専用保管・処理し、バイオマス燃料に加工するまでの一貫した機能を備えた施設「リバース・マネジメントセンター」を西宮市内に完成、稼働させた。廃棄飲料を専門に保管・処理してバイオマス燃料に加工するのはリサイクル業界では初の試みという。

センターは敷地面積約3

500平方メートル。保管施設の面積は195平方メートル。保管容量は585立方メートルで、2リットルペットボトルだと約30万本、缶コーヒーだと約300万本保管できる。建設費用は約9000万円。

周辺への環境対策として脱臭装置を備えるとともに、廃棄飲料の施設外への流出を防ぐため24時間のセキュリティ体制を構築している。

同社は飲料メーカーから処理費用をもらって廃棄飲

料を運搬、保管、処理する。廃棄飲料をセンターに集約することで、リサイクルのための前処理を効率的にできる。

センターでは、前処理として段ボールなどの梱包資材と廃棄飲料に選別。廃棄

廃棄飲料は固形状のバイオマス燃料に加工される

飲料は破砕処理設備にかけられ、中身の液体と容器(缶、瓶、ペットボトルなど)に分離される。その後、破砕された容器は品目別にリサイクルされ、液体は乾燥設備によって固形状のバイオマス燃料に加工される。同燃料は廃棄物100%の燃料として、ボイラ燃料として利用される。

センターがフル稼働することで、1日当たり約100トンの廃棄飲料を処理し、約20トンのバイオマス燃料を生産できる。同燃料は当面は特定先に供給するが、いずれは販売することも検討している。

飲料メーカーでは廃棄飲料が物流センターや倉庫のスペースをとるなど流通経費がかかっており、処理を委託すれば倉庫の回転率を向上できるメリットもある。

同社は廃棄飲料の運搬から最終的な燃料加工まで、一貫したサービスを提供することで、メーカーの不良在庫削減とリサイクルの「一石二鳥」の効果をもたらしている。